

視覚障がい者を対象に初めての体験会

11月6日、西宮市総合福祉センターで視覚障がい者を対象に体験会を開催しました。西宮市視覚障害者福祉協会（阿部敏一会長）の呼びかけで10人の視覚障がい者と9人のガイドヘルパーさんが参加しました。

ほとんど方が全く目が見えなかったので、用具の説明では針で穴をあけた的を触ったり、両手を広げて筒の長さを確認してもらいました。また、障がい者サポート公認指導員とともにラインから歩いたまでの歩数を計測し、的の高さは自分の身長を基準に見当をつけもらい準備が完了です。

各レーンにサポート公認指導員を配置して、基本動作のやり方をゆっくりと説明しながら矢を吹いてもらいました。最初はお互いに遠慮がありましたが、だんだんとリラックスして、笑顔で会話をしながら1本ごとに声を掛け合って楽しみました。的の正面に筒を向けるのはなかなか難しく、何とか的に当たるようにと、サポート公認指導員がちょっと手を出し過ぎた場面もありました。

最後に参加者からまたやってみたいと声が上がりました。会長さんのお話では「今までもいろんなスポーツを体験してきたが、終わってすぐに、またやってみたいとの声が出たのはスポーツ吹矢が初めてです。よっぽど楽しかったのでしょう」とのことでした。

みんなニコニコして楽しんでもらえて良かったと思います。指導面ではまだまだ反省点が多く、こちらも経験を重ねていかなければと感じました。

（兵庫県協会長 藤原 豊）